

第2回御嵩町総合計画審議会
実施報告書（議事録）

平成27年3月
御嵩町総合計画審議会事務局
（御嵩町企画課）

1. 開会

○企画課長

本日は年度末のお忙し中、また、夜分にお集りいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、これより御嵩町総合計画審議会を開催いたします。はじめに、会長の横山先生よりご挨拶を申し上げます。

2. 会長あいさつ

○横山会長

皆さんこんばんは。前は初顔合わせでしたが、この審議会は行政から出された資料をついたり、しゃんしゃんではなく、審議会で町の方向性を議論していくのが趣旨です。積極的に皆様方からご発言をいただきたい。

○企画課長

(本日の資料の確認)

一つ修正がございます。住民からの意見、19号バイパスは21号のあやまりですので修正をお願いいたします。議事については、会長をお願いいたします。

○横山会長

事務局の方から、資料1から説明をよろしくをお願いいたします。

3. 議事・意見交換

○企画調整係長

(資料1、2について補足)

(資料3、資料4、資料5について説明)

○横山会長

アンケート結果、第四次総合計画がどういうものであったか振り返る資料であった。質問でも結構ですが、資料に基づいて今までの町の施策、取組みについてどのように感じておられるのか、まずご感想でも結構ですのでご発言を願いたい。順番にお話しいただきたいと思います。

○水野委員

高齢化社会、少子化は避けて通れない世の中になっている。どうやったら、人口維持、町の発展につなげることができるのか、この2年でしっかりご検討いただきたい。工業団地については、日本の企業が外国に出て元に戻ってくるという話も聞かすが、御嵩の田舎にも戻らないであろう。新しい団地を造って埋まれば良いが、期待できないであろう。では、どうやって町を発展させていくのか本当に考えていきたい。

○寺尾委員

商工業では、工業が比較的伸びてきた。商業は全て良くないのかということではなく、ところによって八百屋さんががんばっているが、大きいところに流れる傾向はある。工業では新しい

発想で製品をつくっている事業者もある。

商業でがんばっていきたいが、小口融資を行っても運転資金で終わっている場合がある。工業団地にはトヨタ系の従業員が多く来ているが、御嵩町に住まずに可児に住んでおり、コンビニは増えているが、御嵩町に住んでいただけるような対策があるとよい。人口を増やせば御嵩町も潤うので、人口対策を検討する必要がある。

○谷口委員

改めて、総合計画は多方面の内容があり、大変であると感じた。今後の少子高齢化・人口減少社会を見据えて、どうしていくのかを考えていくことになるが、たくさんの面で全て達成していくのは理想であるが、特色のある方向を考えていくことが大事である。地方創生の中でも特色のあるところにお金を出すのが国の方向であり、何か特化できるものがあるとよい。

○田中(尚)委員

観光については、どの自治体でも苦心しており、赤字を抱える中でも観光の予算を出している。秋葉原に行くと電化製品を中国人は大量に買っている。観光客を呼び入れていくことが、赤字を解消することになるが、御嵩では眠っている素材を生かして少しでも大勢の人に来ていただいて、観光振興を具体化して成果を出す方向にしたい。

○田中(絹)委員

御嵩町の中にコンビニができていますが、商店街はさびれてきている。町でコンビニに行かなくても良い施設ができないか。車に乗れなくなると近くに店がほしい。あっても高いことがあるがコンビニが出てくるのであろう。生活するために必要な店などを何とかできないのかと思っている。

婦人の会、生活学校などは、だんだん高齢化しており、若い子との接触が必要。ぼっぼ館に言っているが、私達が若い人達と交流できる。若い人と高齢者の接点があると良い。

伏見でお雛様祭りをやっているが、町全体としては知られていない。これをうまく宣伝して、町全体としてのイベントとして考えていくことが望ましい。

○木村委員

会を作っても高齢化すると、次の方がいない。大型店が近くにできると、個人の店は継続できなく、次の世代に渡せない。女性部は若い人にバトンを渡しつあるので、とりあえず入っていただければと思う。

○加藤(一)委員

南山公園の野球場はセンターなどが狭いが、目いっぱい広さでプロ野球にも使えるようにすれば、名鉄電車で来てくれるなどプラスになる。

○猪野委員

達成しているものについては、これから落ちないように維持していくことが重要で、実施中のものの達成度をどう高めていくのかが重要になる。重要でない評価された項目でも、不満をお持ちの住民もいるので、どうしていくのかが課題である。高齢者や子ども達をいかに守り、子ども達にはどう住み続けてもらうのか、帰ってきてもらうのが重要である。

○岡本委員

高齢化・人口減少が進んでいるが、増やすことはなかなか難しいが、空き家を活用してこと、電車に乗って来ていただけるように何かをやっていく。御嵩町には鬼岩温泉などがあるので、ほかにない資源を活用していくことや、点になっている資源をつないでいくことが必要である。

自治会が消滅しそうなどところもあり高齢化しているが、高齢社会はみんなで力を合わせて、助け合って行うことが地域において必要である。地域でやれることが展開できるとよい。

○谷口委員

第四次総合計画の検証をきちんと行わないと、これからどうしていくのかが見えてこない。行政側が見る達成度は行政サイドの視点であり、住民アンケートの結果はけっして対応していない。重要度についても、重要なものに不満が多いので、その原因は何かを検討していく必要がある。

特に御嵩町は特徴がない町で、産業が弱い。工業出荷額は1千億円を超えているが、グリーンテクノが多く出荷額を高めている。企業誘致は雇用には大事であるが、人が来ても御嵩町で生活して企業に強めてくれるのかというと、ほとんどが可児市に住む。買い物にしても食事にしても、生活サービスが乏しい。商業を含めて、この地域の課題として何をつくりだしていくのか、第四次総合計画の検証から生み出す必要がある。一番大事なのは、特色があるまちづくり、特色は何かをきちんと考える必要がある。経済基盤を強化するためには、この町に何が必要なのか、人口は1万5千人に向かい、それだけの人口が有意義な生活がおくれる施策は何か。行財政運営についての不満は大きいのが問題である。徹底した行政運営を見直す必要がある。

○平井委員

満足度、重要度は真ん中に集まっていて、特色がないということかと感じる。特色が出ていない気がする。これだけの項目の中で点数を評価するのは難しいと思うが、4月から教育委員会の制度改革があるが、教育委員会と行政の各部局が連携をとれなかった部分が解消されて、良い教育につながっていくとよい。

教育については、教育委員会のみではなく町全体で考えていくことが必要。4月からコミュニティスクールを創設して、各校が申請すればできるという会議ができたが、4月から上之郷小学校で取り組む。可茂地域では初めて。コミュニティスクールを使って、地域と教育できる機会をつくれればよい。

○伏屋委員

21号バイパスができインターも設置されたが、道の駅は可児市にできた。御嵩町も、21号バイパス圏内に、生活改善でつくっている味噌、華寿司など他地区で有名になっているものを提供する施設を考えていくと町に人が来る。

農業をやっている人が高齢化している。農地中間管理機構として伏見営農を創設しており、農地を預ける人が増えている。この先、農業の担い手として法人のみではなく、若い認定農業者にも力を注いで応援したい。

○横山会長

今、多岐に渡るご意見をいただき、いくつかのキーワードが出た。一つはセーフティネットで、高齢者の足、防災の問題があり行政の役割、地域の協力が必要。それだけではなく、夢

のあることも必要である。雛祭りを町全体に広げること、女性会では後継者が育っていること、今、まちの種の取り組みがあるが、そういう種を探す知恵が必要である。この両面を検討するようにお願いしたい。

満足度、重要度の報告があったが、次の作業として具体的な施策が今まで、どのように進捗して、何が足りないのか、第五次総合計画ではどういうところを付足していくのかという作業が出てくる。

それでは、次の資料4で、御嵩町の現況と資料5次の第五次総合計画についての資料の説明をお願いします。

○企画調整係長

(資料4 統計からみた御嵩町の現状について

(資料5 第五次総合計画策定に向けて を説明)

○横山会長

今の資料では現状、これから第五次総合計画に向けての流れを説明いただきました。これからのキーワード等は、今後決まっていく。今までの現状と、これからどういうことが第五次総合計画のキーワードになるがご意見をいただきたい。

○伏屋委員

御嵩町の強み、弱みの中で、21号バイパスのこと周辺開発に力を入れた方が、御嵩町の発展につながる。優良農地は守って後世に残すことが大事である。

○平井委員

御嵩町の現状について6ページ、1995年に大きく転出超過になった理由は、第五次総合計画の策定に向けて、住民意識からみたまちづくりの方向性では、御嵩町の特徴を持つ意味でも、子どもを中心としたまちづくりや文化活動があってよい。

○企画課長

1995年は御嵩町で産業廃棄物処理問題が浮上して柳川町制が発足した。それが原因で人口に影響があったということではないが、御嵩町の大きな転換期になった。花フェスタ95が開催されたり、県がイベントを盛んに開催していた時期であるが、決定的な人口の流出理由は分からないが大きな転換期であった。

○谷口委員

大事なことは町の強みが何か、今まで中山道の宿場町として、そこを中心に歴史的にもまちづくりを継続してきており、今後も必要である。願興寺や龍安寺の石庭の愚溪寺に原石が残っており、ここにしかない資源を生かし切れていない。

世代間の交流が少ないことは、これからは子育て、幼少から老年までの基本的な生涯学習体系が来必要である。体系がきちんとしていけば、地域間で協議される土壌もこれから育つ。幼少から高齢者までの学習システムを取り入れることが必要である。

防災・防犯はどこの市町でも問われているが、防災は最低限機能できる拠点を地域に貼りつかせ、地域の自助を中心とした防災体系をつくりあげていく。4地区では事情が異なり、被害想定も異なったものを想定していく必要があるが、共有としては亜炭廃坑の問題は避けて

通れない。

バイパスについては、御嵩町は生かし切れていない。これからどうやって生かすかは、地域の産業の皆さんに必要であり通過交通へのサービスをすることを考える必要がある。

商店街が壊滅的になっている原因はコンビニであり、普段の生活に必要なものはコンビニで提供されている。御嵩町は購買力の8割が外に出ているので、町内消費に還元させることが必要である。自然が豊かだからここに残りたいという声が多いが、里山については行政も力を入れているが、学校教育ではそこまで浸透していない。地域を知る地域教育も教育カリキュラムに入れるしくみ、それを大人が見守り、生涯学習に結び付けていくことが必要である。

公共交通はうなぎの寝床では利用者が増えないので、できれば広見線を中央線と直結させるような広大な構想も必要である。リニアの時代には、当然そうした要望が出てくる。

○岡本委員

この町しかない資源をいかすことは大事。それは、自然であったり、願興寺、中山道、二つの宿場町を面として大切にしておいて人を呼び込む。

地域力、地域での力を上げるようなしくみ、地域で高齢化する中で助け合う、地域の特色を出して、みんなが取り組んでいけるように。

車に乗れなくなっても、みんながそこに集まり、買い物をしやすいなど、地元の特徴を生かしてみんなで活用、大きな町ではない特色を出す。高齢者が多くてもできるような。公共交通はなくなると一気にさびれると不安に思うので、大事にしていきたい。

○猪野委員

人口が減る将来はけっして明るいとは思われないが、住民の意見では発展の余地があるという期待がすごくあるという印象を受けた。これから将来を担う子どもたちが育ちやすい環境づくりが必要である。

夢のある話ということで、今いる人、地域で住んでいる人が協力して、花を咲かせて、実りのある畑をつくる必要がある。

○加藤(一)委員

力を入れるべき施策として高齢者福祉が24%ですね。御嵩町では、ふらっとハウスなどの施設があり、新しく伏見児童館ができる。お年寄りに体力をつけていただきたいが、車の運転ができないと近くでも行けない。高齢者に来てもらえる交通手段を確保していただけるとありがたい。

○木村委員

私の住んでいる回りでは家が建ち世帯数が増えている。御嵩町は端から端までであるが、可児市に近い家建ち、若い人が多く、我が班では班長は二度と回っていないような状況である。地域で事情が違うのか。

町外から転入している人もいると思うが、御嵩町では土地が安いという印象があるのか、こうした状況はもう少し中心部でもないと良いが、転入している人の理由を知りたい。

○田中(絹)委員

強みで地域のつながり、弱みで地域の防災力が弱いということであるが、防災というのは地域のつながりが強ければ行動につながると聞いた。本庄という町の例も聞いた。

地域内のつながりが強いのは、若い人も年配もそうなのか、地域によって異なるのか。私は団地に住んでいるが、あまり交流がない。上之郷では一体的であるが、町はつながりが弱い。

○田中(尚)委員

町長、管理職員は、御嵩町の将来をどうしたいのか、指針があって民間がついていく。

町の赤字の分析は示されていないが、たとえば高齢者の医療費についての町の負担がどれだけか、そういう分析も大事である。町民の健康増進になるような政策を取り入れることにより、赤字を食い止めることも大事である。御嵩町の現状を分析して、対処する方法を検討する必要がある。

○谷口委員

資料5の住民の意見としては、強み、弱みのことが矛盾しているのか、地域でまとまっていると言っているのか、まともでないと言っているのか疑問を感じた。ただし、地域によって異なるということを感じた。こうしたSWOT分析では難しいと思うが。

みんなが共通して持ちたいことは、子ども、人をしっかり育てることが課題である。経済界では企業の事業を成功させるのは人であり、みんなが御嵩町が良いと思うためには、元気な子を育てようというのもキーワードになる。

○寺尾委員

トンネルが八百津に抜けるが、その地域の人が御嵩町に住んでくれる、名鉄電車に乗ってくれるというように、八百津のみなさんのことを受け入れていく。

○水野委員

御嵩町は今までやってこなかったのは、経済については風を読むこと。それは2018年にはトンネルが開通、2020年環状線が全部完成、2020年には東京オリンピック、たぶんイオンも開店、2027年にはリニアが開通する。これだけのことがあり、御嵩はど真ん中にあり、利用しない手はない。対策は御嵩町全体で、農業ならば6次産業ができるような想いについて、皆さん集まって、1次、2次、3次産業の方で6次産業を育てることをきちんと進める必要がある。こういう場で話しても、全体がふらつく。グラウンドについては、プロ野球が来れるグラウンドに、観光はどうしていくのか、個別に話していくとよい。

御嶽宿の景観は、よそよりもかなり良い味が出せた。中山道沿いを子どもたちが自由に遊べて勉強できるように歩行者天国みたいに、自動車は止める決意を持ってやらないとグレードアップしない。できるかできないか、皆さんで検討していただきたい。

○中島副会長

特色がない町と言われながら、人口の減少は少ない。30歳代の人で増えて、その子ども達も増えているはずである。子ども達に住み続けてもらうために、御嵩のことを好きになる教育を独自に進める必要がある。

○横山会長

ポイントの一つはそれぞれの分野の振興は大事であるが、横串、共通して町として行っていくことは人づくり、インターの活用、公共交通などのことである。もう一つは、地域力である。自助、共助、公助が分りやすいが、地域の高齢化が進んで役員のなり手確保もままならい

時、どう地域力を上げるか、地域の皆さんの力が必要である。最後に、移住者が増えているのではないかというお話があったが、今までの伝統もマイナス面ではなく角度を変えようという現状はあり、そういう成功事例についてここはいいという指標もあるような気がした。

最後に、寺尾委員、水野委員から斬新なアイデアをいただいたが、今まで考えていなかった八百津など行政区分を超えたつながりや、今までにない発想を取り入れてやっていく。発想の転換が小さい町であるからこそできる、弱みと置いていたところが強みになる、というような発想を。小さい町だけど良い事例があるという見方も必要である。

今日の皆さんの意見をまとめて、第3回の審議会を開きたいと思います。

4. 閉会

○企画課長

長時間に渡って、ありがとうございました。今日、いろいろなキーワードをいただきました。町にしかない資源を生かす、人を呼び込んで地域力を上げるのは、皆さんの共通認識と思う。それぞれの分野で自分のところの分野を守っているのみではなく、横串を入れることを考えていかないといけないというご意見をいただいた。

今日いただいた意見を分野別にまとめてみたりしながら、第五次総合計画に向けた素案のようなものを提示して、議論を深めていただければと思うので、宜しくお願いします。

以上

